



「父の原爆回想記 2」

輪番 楠 活也



1945年8月6日ヒロシマ、8月9日ナガサキに原子爆弾が投下されました。広島では約14万人、長崎では約7万人の方々の命が一瞬にして奪われました。私の父、達也は、6歳の時に長崎で被爆しました。今回は、今から5年ほど前に父へのインタビューをもとに書かれた新聞記事を紹介し、皆さんと共に、戦争と平和について考えたいと思います。
＜「バカタレ！」救いの声＞

あの声がなかったら。楠達也さんは毎年8月9日、ある声の主を思って手を合わせる。

原爆投下の日は、長崎師範学校男子部付属国民学校1年の夏休みだった。空襲警報が解除されると、防空壕から出て誰もいない光源寺の境内でセミ捕りを始めた。庫裏近くのイスノキに登り、上の枝にとまっているセミを竹の棒でつついた。「ブーン」と爆撃機の音がかすかに聞こえる。しかし、目の前のセミを捕るのに夢中で気に留めなかった。その時、雷より大きな声で怒鳴られた。

「バカタレ！早く逃げろ」だれかはわからないが、男性の大声に驚いて木から飛び降り、庫裏に飛び込んだのが午前11時2分。爆音と衝撃がきた。壁や天井が崩れてきて、そのまま境内の防空壕へ走った。けがはなかったが、怖くなって一人でワンワン泣き叫び、おしっこまでもらしてしまった。壁からポトンポトンと落ちる水滴。うごめくムカデやハエ。防空壕には、いやなにおいが充満していた。

＜けが人であふれた本堂＞

楠達也さんが泣いていると、母八重さんが1歳の弟勇さんを抱いて防空壕に入ってきた。八重さんは顔が血だらけで、縁側で寝ていた勇さんは髪の毛がチリチリに焦げていた。浦上にお参りに行く予定だった

8月の予定

5日 10時 原爆被爆者追悼法要

10時45分 日本語ビデオ

12日 10時 家族法要

10時45分 日本語法要

19日 10時 家族法要

英語ご法話

今中師、シアトル高野山

10時45分 日本語ビデオ

26日 10時 家族法要

ご法話 宮地師 タコマ仏教会

10時45分 日本語法要

ご法話 宮地師 タコマ仏教会

ケン田中師のスペシャル・レクチャー

英語 詳細次のページ

2日 1時半 日系マナー法要

16日 1時半 日系マナー法要

29日 10時半 敬老ホーム法要

30日 11時 メリル・ガーデン

父聞信さんも、三菱兵器製作所に動員されていた姉二人も、予定が変更になったり、体調を崩して休んだりして、家族はみな無事だった。

外に出ると、空が暗い雲で覆われて夜のようなだった。県庁や市役所あたりが真っ赤に燃えているのが見えた。夜中に諫早から届いた配給のおにぎりを食べ、防空壕で家族と夜を明かした。

翌日、寺の本堂には次々とけが人が運び込まれ、足の踏み場がないほどになった。低いうめき声が響き、怖くて近づけなかった。両親が赤チンを塗って手当てをしたが、数日後にはウジがわき、毎日たくさんの方が苦しんで亡くなった。遺体は大八車などで伊良林国民学校に運び、運動場で火葬した。夕飯時になると、煙とにおいが寺まで流れてきた。

<菓子やジュースに感激>

1945年8月15日。光源寺の本堂は長崎新聞が仮社屋として使っていた。社員40人ほどが集まり、楠達也さんは一緒に正座をして玉音放送を待った。やがて大人が声をあげて泣き出した。誰かが「戦争に負けた」と教えてくれた。

鬼畜米英と聞かされてきた米兵の印象は、敗戦で一変した。夕飯が終わる時間帯に中島川沿いにあった進駐軍基地（現在の長崎市伊良林1丁目）に通うのが楽しみだった。目的はチョコレートやチューインガム。「ハロー」と声をかけると、米兵はポケットからお菓子をばらまいた。兄二人が進駐軍で通訳をしており、寺には米兵がよく遊びに来た。蓄音機で音楽を流し、畳でフォークダンスを踊った。お土産の白いパンはご馳走だった。

小学校3年生になると、土曜日に伊良林小学校でコップ一杯のジュースを支給されるようになった。今まで飲んだことのない甘いフルーツの味。家族に飲ませたくて、コップの口を手のひらでふさぎ、家まで持ち帰った。（つづく） 合掌 楠 活也

8月のスケジュール

- 6日 「広島・ツー・ホープ」6時—9時グリーン・レーク
- 7—9日 輪番はポर्टランドでのBCAの布研に出席
- 26日 レクチャー 英語 田中ケン博士・開教使
 - 1時 初級
 - 2時15分 中級
 - 3時30分 上級

9月のスケジュール

- 9日 ダーマ・スクール初日
- 16日 ともしえ公演
- 22日 ウーマン・イン・ブディズム・セミナー
- 23日 お彼岸法要・

会員部より

別院メンバーシップ・コミティーは維持会会員の会員増加運動を計画しています。維持会メンバーは会費によりお寺の維持費、運営費のサポートをしています。ミニマムの会費の提案は300ドル、70歳以上は250ドルです。

お盆ピクチャー2018は英語面にあります。

ウォーク・フォ・ライス

当日の朝はすこし涼しいくらいでしたが6名の婦人会のメンバーがウォークに集合しました。また一緒に歩いて下さったのは柴田デニスとディーン・オーシールドの男性。サプライズは桑原先生とIMOPの3名の先生と私達の楠木先生が参加して下さいました。先生方はベスト・ドレスでスーツにドレス・シューズでした。楠先生のおかげで皆さんジャケットを着られていました。



盆踊り

盆踊りでご奉仕された方がたに感謝します。またクラフト・ブースでは時間をかけて並べられた品々がきれいでした。金曜日には焼きそばブースの準備に野菜カット、麺をゆでる、ソース作りをしました。皆様の協力無しでは出来ませんでした。一緒に働き他のメンバーと知り合うのも楽しいことです。

ジム・ディスプレイ

ご覧になった方々も居られますでしょうが、ジムでは婦人会のディスプレイがされました。これは森久保ゆきお、キャレン夫妻が用意されました。ゆきおさんは九条夫人のポートレートも描いて下さいました。



2019年婦人会会費：未払いの方は納めてください。15ドルです。

Donation: gratefully acknowledged
SBC Dharma School - donation for KSP Cooking Supplies
Kinue Kuwahara - 49th Day Service for Jack Matsui
Shigeiko Sudo - Dana Day

第6回 ウィーメンズ・セミナー

恒例の婦人セミナーが今年も開かれます。

テーマ：Tools for Spiritual Wellness
9月22日9時半 - 3時半

Carmela Javellana - Hirano M.D. アシスタント・ミニスター、ソルトレーク仏教会
講演のテーマ “The Wounded Heart”

Elizabeth Myoen Sikes Ph.D. 博士、シアトル大学エコーサンガ共同所長、曹洞宗信者
講演のテーマ “Tara’s Response: Deep Listening and Right Speech in our Relationships.”

今年は残念ですが、日本語のセッションはありません。
ご講師の先生方ともに精神面と癒し、カウンセリングなどの専門です。学ぶことの多い一日となるでしょう。
そのほかに、インドの仏教徒に始まるタラ・ダンスのレッスン、内観療法、太鼓などを準備

